

セパレセンターの廃棄物再資源化

サッポロビール株式会社

分類(a): ①リデュース ②リユース ③リサイクル ④その他

分類(b): ①再生材の活用 ②バイオプラスチックの活用(バイオマス・生分解性プラスチック)
③その他プラスチック代替品(紙製品等)の活用
④ポイ捨て防止等の海への流出抑制、海洋ごみの回収・処理等(自治体やNGO等との連携・協力含む) ⑤モニタリング・計測調査(自治体等との連携・協力含む)
⑥研究開発 ⑦IoT、AI、ロボットの活用 ⑧消費者等への普及啓発活動

分類(c): ①国内活動 ②海外活動

分類(d): ①現在の取組み(これまで、今後の取組み含む) ②新たに着手する(予定の)取組み

<取組みの概要、(数値)目標、実績など>

当社は、2002年より「セパレシステム」を導入し、ビールラインと冷却部を分割して交換できる構造から部品の長寿命化を実現している。

又、セパレセンターから排出される樹脂性ビールホースは、ビールラインを移送する際の袋へリサイクルされ、ビールライン梱包用のPPバンドについても同じPPバンドにリサイクルしている。

今後も廃棄物抑制による環境負荷低減効果と再資源化を継続して取り組んでいく。

【参考】セパレシステム



再生された袋の画像



再生されたPPバンドの画像

リユース・リサイクル「プラスチック容器」の再資源化

サッポロビール株式会社

分類(a): ①リデュース ②リユース ③リサイクル ④その他

分類(b): ①再生材の活用 ②バイオプラスチックの活用(バイオマス・生分解性プラスチック)

③その他プラスチック代替品(紙製品等)の活用

④ポイ捨て防止等の海への流出抑制、海洋ごみの回収・処理等(自治体やNGO等との連携・協力含む) ⑤モニタリング・計測調査(自治体等との連携・協力含む)

⑥研究開発 ⑦IoT、AI、ロボットの活用 ⑧消費者等への普及啓発活動

分類(c): ①国内活動 ②海外活動

分類(d): ①現在の取組み(これまで、今後の取組み含む) ②新たに着手する(予定の)取組み

<取組みの概要、(数値)目標、実績など>

当社では、リターナブル容器である「びんビール」を輸送するために、プラスチック容器をリユースしている。

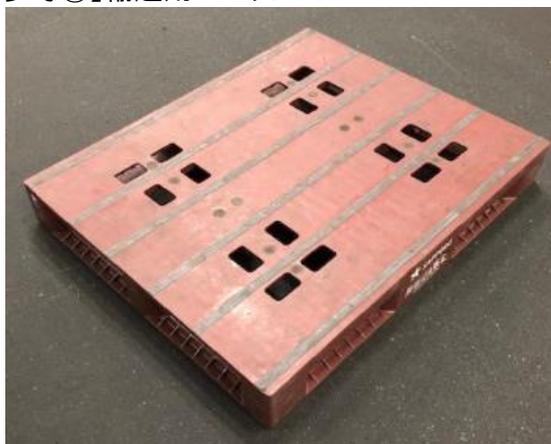
具体的には、老朽化により利用できなくなったプラスチック容器を輸送用パレット原料として再資源化している。

(なお、2017年におけるプラスチック容器の再生実績は約9万函であった。)

【参考①】プラスチック容器(P 函)



【参考②】輸送用パレット



事務所周辺地域の美化活動

サッポロビール株式会社

分類(a): ①リデュース ②リユース ③リサイクル ④その他

分類(b): ①再生材の活用 ②バイオプラスチックの活用(バイオマス・生分解性プラスチック)

③その他プラスチック代替品(紙製品等)の活用

④ポイ捨て防止等の海への流出抑制、海洋ごみの回収・処理等(自治体やNGO等との連携・協力含む) ⑤モニタリング・計測調査(自治体等との連携・協力含む)

⑥研究開発 ⑦IoT、AI、ロボットの活用 ⑧消費者等への普及啓発活動

分類(c): ①国内活動 ②海外活動

分類(d): ①現在の取組み(これまで、今後の取組み含む) ②新たに着手する(予定の)取組み

<取組みの概要、(数値)目標、実績など>

サッポロビール株式会社では事業所周辺や周辺地域にある公道沿い・公園の清掃・美化活動をしている。

その一例として恵比寿エリア(本社所在地)においても、毎月定期的に事務所周辺の公園等(恵比寿駅東口公園)清掃活動を実施し、地域の美化活動に貢献している。

なお、サッポログループ各社で同様の取組みを行っている。

サッポログループ★清掃活動

<http://www.pirika.org/c/sapporo>



包装仕様のリニューアルに伴うリデュースの促進

サッポロビール株式会社

分類(a): ①リデュース ②リユース ③リサイクル ④その他

分類(b): ①再生材の活用 ②バイオプラスチックの活用(バイオマス・生分解性プラスチック)
③その他プラスチック代替品(紙製品等)の活用
④ポイ捨て防止等の海への流出抑制、海洋ごみの回収・処理等(自治体やNGO等との連携・協力含む) ⑤モニタリング・計測調査(自治体等との連携・協力含む)
⑥研究開発 ⑦IoT、AI、ロボットの活用 ⑧消費者等への普及啓発活動

分類(c): ①国内活動 ②海外活動

分類(d): ①現在の取組み(これまで、今後の取組み含む) ②新たに着手する(予定の)取組み

<取組みの概要、(数値)目標、実績など>

当社では、業務用商材である 18L 容量のサッポロ焼酎のバッグインボックス(以下BIB)の包装仕様リニューアルを行った。

具体的には、BIB容器の仕様変更及び容器材質を見直すことで、中味液の保護性を高め品質向上を実現し、BIB容器本体で薄肉化・サイズ変更により資材の使用量を約 18%削減することができ、容積比でも 1/3 となり、容器・包装の軽量化によるリデュースを実現した。

この他にも、外函および中味を入れている容器自体を全体的にコンパクトにできたことで飲食店における保管の省スペース化に繋げることができた。

【参考①】バッグインボックス(BIB)について

容器包装形態の一品種であり、プラスチック製の内装容器と段ボールケースを主体とする外装容器から構成される液体用の組み合わせ容器である。省資源・省スペース・易廃棄性といったメリットから注目を集めており、需要を伸ばしている。

【参考②】当社でリニューアルしたバッグインボックス(BIB)のイメージ



旧資材



新資材



※ 段ボール箱に入れて出荷されます。

地域と連携した浜当目海岸ビーチクリーンアップ

サッポロビール株式会社 静岡工場

分類(a): ①リデュース ②リユース ③リサイクル ④その他

分類(b): ①再生材の活用 ②バイオプラスチックの活用(バイオマス・生分解性プラスチック)
③その他プラスチック代替品(紙製品等)の活用

④ポイ捨て防止等の海への流出抑制、海洋ごみの回収・処理等(自治体やNGO等との連携・協力含む) ⑤モニタリング・計測調査(自治体等との連携・協力含む)

⑥研究開発 ⑦IoT、AI、ロボットの活用 ⑧消費者等への普及啓発活動

分類(c): ①国内活動 ②海外活動

分類(d): ①現在の取組み(これまで、今後の取組み含む) ②新たに着手する(予定の)取組み

<取組みの概要、(数値)目標、実績など>

サッポログループでは、ビーチクリーンアップ活動を取り纏める「クリーンアップ全国事務局」を1992年より継続支援している。

また、この活動を支援する際、お客様にビールや飲料水を提供する際、缶やペットボトルなどを使用しており、事業活動を通じた環境負荷への配慮が求められるなか、サッポログループにとっても、海岸に打ち寄せられるゴミのクリーンアップは大切な活動となっている。

サッポロビール静岡工場でも年2回(7月、11月)に工場の近くにある浜当目海岸で、ビーチクリーンアップを実施している。本年は11月25日にサッポログループ社員、協力会社社員、自治体より総勢70名ほどの方々が参加し、大規模な清掃活動となった。

これからも自治体と連携・協力しながら、清掃活動を通じて社会貢献していく。



(写真:2018年11月25日に実施された浜当目ビーチクリーンアップの様子)

分別強化による PP、PE、PET 等の再資源化処理の推進

JSR株式会社

分類(a): ①リデュース ②リユース ③リサイクル ④その他

分類(b): ①再生材の活用 ②バイオプラスチックの活用(バイオマス・生分解性プラスチック)
③その他プラスチック代替品(紙製品等)の活用
④ポイ捨て防止等の海への流出抑制、海洋ごみの回収・処理等(自治体やNGO等との連携・協力含む) ⑤モニタリング・計測調査(自治体等との連携・協力含む)
⑥研究開発 ⑦IoT、AI、ロボットの活用 ⑧消費者等への普及啓発活動

分類(c): ①国内活動 ②海外活動

分類(d): ①現在の取組み(これまで、今後の取組み含む) ②新たに着手する(予定の)取組み

<取組み概要>

・当事業所は、各職場に廃棄物置場、事業所内に分別置場を設置。また、分別・表示基準の整備と浸透、廃棄物専門教育と各職場管理者の選任など、従業員が分別しやすい環境と分別徹底の浸透等を推進。

・2018年4月には旧プラント建屋を利用して、新リサイクルセンターを稼働。事業所で発生する廃棄物集約とセンター専任者による指導等により、分別率が大幅に向上。

<数値目標>

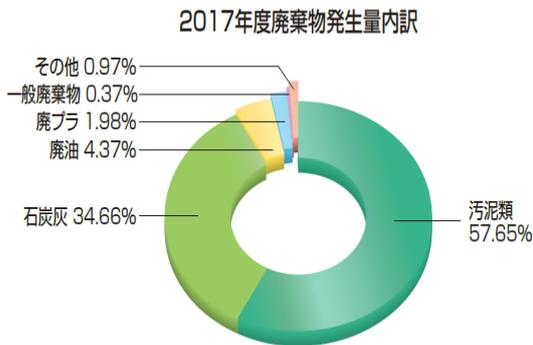
・廃プラスチック類発生量：廃棄物総発生量の2%以下

<これまでの実績>

・廃プラスチック類発生量：廃棄物総発生量の1.98%

※約100ton/年の有価物化

【2017年度廃棄物発生量内訳】

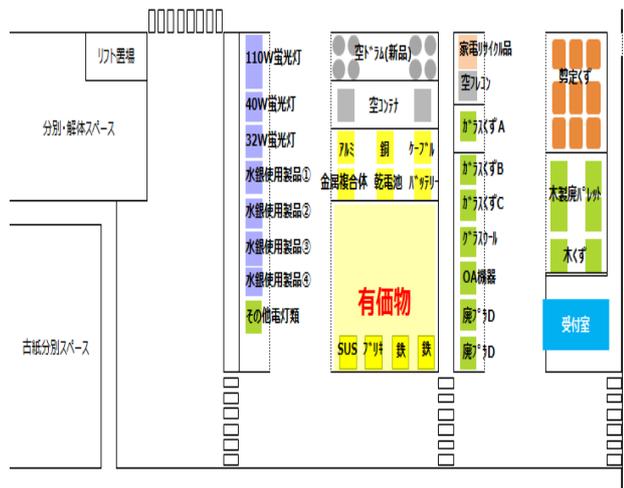


【分別・表示基準】

分類、品目、荷姿、廃棄場所、注意事項、処理方法

分類	品目	荷姿	廃棄場所
産業廃棄物・有価物	廃プラ③-A (硬質・軟質共通) *③-B~E以外のプラ類 ※取り外せない付属物は、そのまま廃棄可 【参考例】 ビニル、ポリ袋、菓子袋等 マスク	透明ポリ袋 フレコン	各課産業廃棄物置き場 または焼却場持込
	廃プラ③-B (各サイズ共通) ペットボトル	透明ポリ袋	各課産業廃棄物置き場
⑤	廃プラ③-C *油、溶剤付着類全般 (過酸化化物以外) 【参考例】 ポリ缶、ポリカップ 紙類	透明ポリ袋 (二重化) フレコン	各課産業廃棄物置き場 または焼却場持込
	廃プラ③-D *過酸化化物付着類全般 【参考例】 ポリ缶、ポリカップ 紙類	透明ポリ袋 (二重化) フレコン	各課産業廃棄物置き場 または焼却場持込
⑤	廃プラ③-E 発泡スチロール 発泡シート	透明ポリ袋 フレコン パレット	各課産業廃棄物置き場 または焼却場持込

【新リサイクルセンター】



環境配慮型製品の開発

株式会社 J-オイルミルズ

分類(a): ①リデュース ②リユース ③リサイクル ④その他

分類(b): ①再生材の活用 ②バイオプラスチックの活用(バイオマス・生分解性プラスチック)
③その他プラスチック代替品(紙製品等)の活用
④ポイ捨て防止等の海への流出抑制、海洋ごみの回収・処理等(自治体やNGO等との連携・協力含む) ⑤モニタリング・計測調査(自治体等との連携・協力含む)
⑥研究開発 ⑦IoT、AI、ロボットの活用 ⑧消費者等への普及啓発活動

分類(c): ①国内活動 ②海外活動

分類(d): ①現在の取組み(これまで、今後の取組み含む) ②新たに着手する(予定の)取組み

<取組みの概要>、(数値)目標、実績など

J-オイルミルズは、容器包装に係る環境負荷を低減する取り組みとして、包材の改善や軽量化、また廃棄時の減容化や分別の容易化など、長年にわたり積極的に取り組んできました。

<これまでの実績例>

2014 **400g UDエコパウチ** バイオマス仕様
原料のさとうきび由来原料PETに蒸着バリアを施しパウチに使用。
第38回日本下賞
新規創出部門
日本パッケージングコンテスト
食品包装部門賞

2017 **1000gエコボックス**
食用油容器として初めて「エコマーク商品」として認定された紙パックを採用。外箱は再生紙で解体容易設計、内箱は小さくたたんで捨てられます。「お助け開み」で持ちやすく、エンボス加工で滑りやすさを結集。さらに印刷は大豆インクを使用。
日本パッケージングコンテスト
ジャパンスター賞:
経済産業大臣賞
第31回日本下賞
改善合理化部門
ジャパンパッケージング コンペティション
リニューアル部門賞
食糧新聞社賞
優秀機構・資材賞

2011 **8kg及び15kg UDバッグ・イン・ボックス (UDBIB)®**
持ちやすさ(柔らかいPPバンド)、注ぎやすさ(ココ持ちっ子・ソコ持ちっ子の取っ手穴付き)、廃棄しやすさ(廃棄しやすいテープ)を採用。
日本パッケージングコンテスト
アクセシブルデザイン賞

当社 HP より <https://ir.j-oil.com/csr/Environment/003.html>

<今後の取り組み>

新素材や新技術の導入(植物由来のバイオマスプラスチックなど)、プラスチック容器包材の改善(軽量化、薄肉化など)、商品を発売する際の環境影響を評価する仕組みの導入などに取り組んでいく。

東京湾再生官民連携フォーラムへの参画

昭和シェル石油株式会社

- 分類(a): ①リデュース ②リユース ③リサイクル ④その他
- 分類(b): ①再生材の活用 ②バイオプラスチックの活用(バイオマス・生分解性プラスチック)
③その他プラスチック代替品(紙製品等)の活用
④ポイ捨て防止等の海への流出抑制、海洋ごみの回収・処理等(自治体やNGO等との連携・協力含む) ⑤モニタリング・計測調査(自治体等との連携・協力含む)
⑥研究開発 ⑦IoT、AI、ロボットの活用 ⑧消費者等への普及啓発活動
- 分類(c): ①国内活動 ②海外活動
- 分類(d): ①現在の取組み(これまで、今後の取組み含む) ②新たに着手する(予定の)取組み

<取組みの概要、(数値)目標、実績など>

東京湾再生官民連携フォーラム(※)に参画し、東京湾再生のための評価指標を作り、水質等に関連する調査等、東京湾の生物多様性の回復に取り組んでいる。
フォーラムでは、東京湾流域を対象とした「市民によるゴミ回収活動の参加者数」が評価指標の一つとなっており、ゴミ回収活動を推進している。

※東京湾再生官民連携フォーラム

平成 25 年 11 月設立。東京湾の環境再生に意欲を持つ多様な人々が有するあらゆる英知を結集し、連携や協働を行うこと、また、それらの活動を通して生み出される東京湾再生に向けた総意をとりまとめ、「東京湾再生推進会議」へ提案すること等の役割を担うことを期待されている。現在までに「東京湾環境モニタリングの推進プロジェクトチーム」を含め9つのプロジェクトチームが立ち上がっている。

<http://tbsaisei.com/index.html>

海ゴミの回収量 市民によるゴミ回収活動の参加者数

http://tbsaisei.com/pt/PDF/H29/index_pt/garbage_report2016.pdf

廃棄物、梱包材の削減

住友重機械工業株式会社

分類(a): ①リデュース ②リユース ③リサイクル ④その他

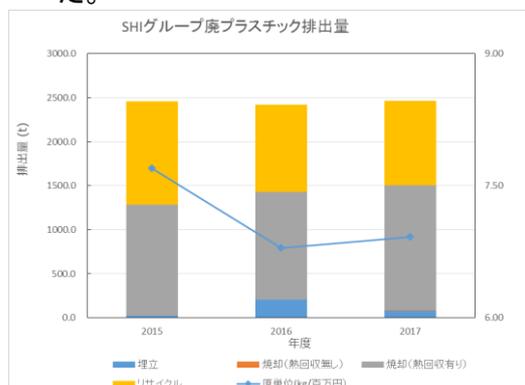
分類(b): ①再生材の活用 ②バイオプラスチックの活用(バイオマス・生分解性プラスチック)
③その他プラスチック代替品(紙製品等)の活用
④ポイ捨て防止等の海への流出抑制、海洋ごみの回収・処理等(自治体やNGO等との連携・協力含む) ⑤モニタリング・計測調査(自治体等との連携・協力含む)
⑥研究開発 ⑦IoT、AI、ロボットの活用 ⑧消費者等への普及啓発活動

分類(c): ①国内活動 ②海外活動

分類(d): ①現在の取組み(これまで、今後の取組み含む) ②新たに着手する(予定の)取組み

<取組みの概要、(数値)目標、実績など>

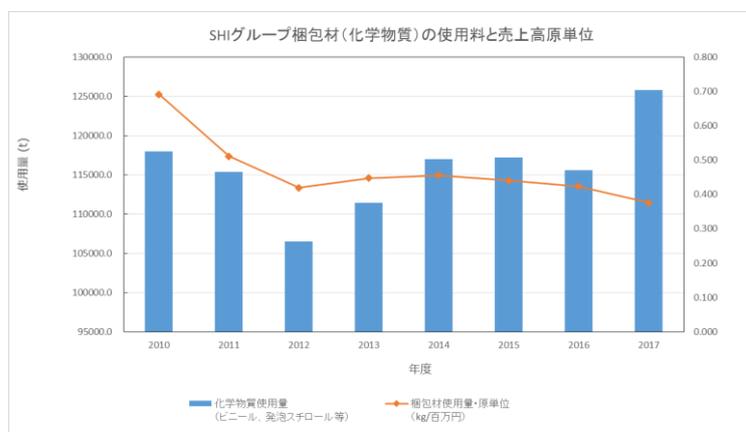
- ① 売上高原単位で年1%を目標とする廃棄物削減において廃プラスチックの削減を含んだ活動を実施しており、2015年度比、2017年度は、売上高原単位で約19%削減となった。



- ② 売上高原単位で年1%を目標とする製品梱包材の削減においてプラスチックの削減を含んだ活動を実施しており、2010年度比、売上高原単位で約45%削減となった。

具体例

廃棄物となるインスターパックから再利用できる袋状の梱包材へ変更



セキュリティ機器の環境配慮設計と3R 活動

セコム株式会社

分類(a): ①リデュース ②リユース ③リサイクル ④その他

分類(b): ①再生材の活用 ②バイオプラスチックの活用(バイオマス・生分解性プラスチック)
③その他プラスチック代替品(紙製品等)の活用
④ポイ捨て防止等の海への流出抑制、海洋ごみの回収・処理等(自治体やNGO等との連携・協力含む) ⑤モニタリング・計測調査(自治体等との連携・協力含む)
⑥研究開発 ⑦IoT、AI、ロボットの活用 ⑧消費者等への普及啓発活動

分類(c): ①国内活動 ②海外活動

分類(d): ①現在の取組み(これまで、今後の取組み含む) ②新たに着手する(予定の)取組み

<取組みの概要>

セコムは、セキュリティ機器の開発・設計にあたっては、省電力、小型化、資源の有効利用、長期使用、有害化学物質の不使用、梱包材の軽量化などの「環境配慮設計」を実践し、主なサプライヤーの皆様へ「グリーン設計ガイドライン」を配布して、サプライチェーン全体で地球環境保全に取り組んでいる。

例えば、新型の機器は、従来型に比較してプラスチック筐体の小型化・省資源化・省電力化などの環境負荷の軽減に資する改善を行っている。

また、環境保全と資源の有効利用の観点から、お客様から回収したセキュリティ機器類は、再利用する機器と除却する機器に分別し、さらに除却機器の筐体・電子基板は、プラスチックと金属に徹底分別してリサイクルしている。

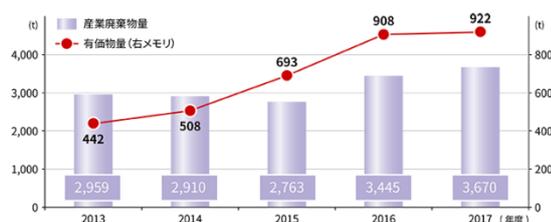


<これまでの実績例>

		(当社従来型との比較)	
1. セコムホームセキュリティ G-カスタム	・消費電力	43%減	
	・体積	35%減	
	・質量	17%減	
2. セコムNVRシステム (次世代型防犯カメラ)	・消費電力	10%減	
	・体積	61%減	
	・質量	40%減	
3. ハンクスIIIs (安全管理システム)	・消費電力	57%減	
	・体積	55%減	
	・質量	66%減	



2017年度は、回収機器から922トンのプラスチックと金属を有価物としてリサイクルし、資源の有効利用と環境負荷の軽減に努めている。



清涼飲料業界のプラスチック資源循環宣言

一般社団法人全国清涼飲料連合会

分類(a): ①リデュース ②リユース ③リサイクル ④その他

分類(b): ①再生材の活用 ②バイオプラスチックの活用(バイオマス・生分解性プラスチック)

③その他プラスチック代替品(紙製品等)の活用

④ポイ捨て防止等の海への流出抑制、海洋ごみの回収・処理等(自治体やNGO等との連携・協力含む) ⑤モニタリング・計測調査(自治体等との連携・協力含む)

⑥研究開発 ⑦IoT、AI、ロボットの活用 ⑧消費者等への普及啓発活動

分類(c): ①国内活動 ②海外活動

分類(d): ①現在の取組み(これまで、今後の取組み含む) ②新たに着手する(予定の)取組み

<取組みの概要、(数値)目標、実績など>

全国清涼飲料連合会は PET ボトルなどの容器包装を使用している事業者団体として、プラスチック資源循環や海洋プラスチック対策について「清涼飲料業界のプラスチック資源循環宣言」を発表した。清涼飲料業界が一丸となり、お客様、政府、自治体、関連団体等と連携しながら、2030 年度までに PET ボトルの 100%有効利用を目指すことを宣言する。

<背景>

清涼飲料業界は、かねてより容器の散乱防止やリサイクルなど 3R推進に取り組み、PET ボトルの 2017 年度リサイクル率は 84.8%と世界的にも高い実績。しかしながら、海洋プラスチックが社会問題化するなか、あらためてプラスチックの資源循環に対応すべく「清涼飲料業界のプラスチック資源循環宣言」を制定した。

<内容>

【短期(2020 年度)】

- ・国民運動と連動した業界としての啓発活動と広報強化
- ・3R推進団体連絡会と協力し、第3次自主行動計画の達成
- ・目標 2020 年度 リサイクル 85%以上 リデュース 25%(2004 年度比)
- ・自販機専用空容器リサイクルボックスにおけるリサイクル啓発、及び効率的な回収への取組み強化
- ・環境 NGO 等ステークホルダーとの連携強化
- ・再生材利用拡大(ボトル to ボトル等)への課題整理及び推進
- ・代替素材活用への取組み推奨(バイオマスプラスチック等)

【中期(2025 年度)】

- ・国や地域との協働による、より効率的な回収システム構築
- ・ポイ捨て防止条例強化要請
- ・再生材・代替素材の積極的な活用推進

【長期(2030 年度)】

- ・PET ボトル 100%有効利用を目指した業界の姿勢・取組み
- ・世界に誇る日本の回収・リサイクルシステムの価値と根拠を定量的かつサイエンスベースで示し、諸外国への波及を目指した関係団体との協働

マイカップ持参推奨の取組み

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

分類(a): ①リデュース ②リユース ③リサイクル ④その他

分類(b): ①再生材の活用 ②バイオプラスチックの活用(バイオマス・生分解性プラスチック)
③その他プラスチック代替品(紙製品等)の活用
④ポイ捨て防止等の海への流出抑制、海洋ごみの回収・処理等(自治体やNGO等との連携・協力含む) ⑤モニタリング・計測調査(自治体等との連携・協力含む)
⑥研究開発 ⑦IoT、AI、ロボットの活用 ⑧消費者等への普及啓発活動

分類(c): ①国内活動 ②海外活動

分類(d): ①現在の取組み(これまで、今後の取組み含む) ②新たに着手する(予定の)取組み

<取組みの概要、(数値)目標、実績など>

・当社の新宿本社ビル・西東京市の事務本部ビルの2か所の社員食堂において、10月からコーヒー等を販売する際に、マイカップ利用者に増量提供するなどマイカップ持参を推奨する取組みを開始した。また、これまでプラスチックで提供していたアイズドリンクのメニューをホット・アイス共通の紙製カップに切り替えるとともに、マイカップ持参者にはコーヒーを10%増量で提供している。この取組みにより、本社ビルでは年間でプラスチックカップ約24万個を削減することとなる。また、プラスチックストローについても一律提供から必要な方のみへの提供に変更した。これらはSDGs目標14「海の資源を守ろう」に貢献する取組みとして、社員の環境に対する意識の醸成を図っている。

・当社では、マイカップ持参推奨以前より、レインフォレスト・アライアンス認証のコーヒー豆を使用した「サステナブル・コーヒー」の提供を開始しており、身近な消費行動から環境問題を考えるきっかけづくりを提供していた。提供開始前には試飲会を行い、サステナブル・コーヒーの香りと味を楽しんでいただくとともに、取組みの意義を説明する機会を設けた。サステナブル・コーヒーへの切り替え以降は、対前比120%の売り上げとなっており、多くの役職員の理解が進んでいる。

・当社グループの役職員に「消費者としての行動変革」を促すことで、SDGsの目標1「貧困をなくそう」・目標8「働きがいも経済成長も」・目標12「つくる責任つかう責任」・目標13「気候変動に具体的な対策を」・目標14「海の豊かさを守ろう」目標15「陸の豊かさを守ろう」などに貢献していく。



シェアリングエコバッグの取組み

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

分類(a): ①リデュース ②リユース ③リサイクル ④その他

分類(b): ①再生材の活用 ②バイオプラスチックの活用(バイオマス・生分解性プラスチック)

③その他プラスチック代替品(紙製品等)の活用

④ポイ捨て防止等の海への流出抑制、海洋ごみの回収・処理等(自治体やNGO等との連携・協力含む) ⑤モニタリング・計測調査(自治体等との連携・協力含む)

⑥研究開発 ⑦IoT、AI、ロボットの活用 ⑧消費者等への普及啓発活動

分類(c): ①国内活動 ②海外活動

分類(d): ①現在の取組み(これまで、今後の取組み含む) ②新たに着手する(予定の)取組み

<取組みの概要、(数値)目標、実績など>

海洋汚染対策の一環として、社内特設販売イベントにおいてプラスチック製レジ袋を提供しない運用の試行実施を開始した。プラスチック製レジ袋は提供せず、やむを得ず持ち帰りの袋を希望される場合は、紙袋(新品ではなくリユース)で提供している。

また、不要な袋・エコバッグを回収し、ビル内でのみ使用できる「シェアリングエコバッグ」の仕組みも開始した。社内特設販売以外でも、売店等に共同利用できるエコバッグを設置し、利用希望者は使用后、次回来店時に返却する仕組み。ISO14001 の仕組みを活用し、買い物の際はマイバッグの持参を推奨し、不要なレジ袋を断るよう社内周知を行っている。



SAVE JAPAN プロジェクト

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

分類(a): ①リデュース ②リユース ③リサイクル ④その他

分類(b): ①再生材の活用 ②バイオプラスチックの活用(バイオマス・生分解性プラスチック)

③その他プラスチック代替品(紙製品等)の活用

④ポイ捨て防止等の海への流出抑制、海洋ごみの回収・処理等(自治体やNGO等との連携・協力含む) ⑤モニタリング・計測調査(自治体等との連携・協力含む)

⑥研究開発 ⑦IoT、AI、ロボットの活用 ⑧消費者等への普及啓発活動

分類(c): ①国内活動 ②海外活動

分類(d): ①現在の取組み(これまで、今後の取組み含む) ②新たに着手する(予定の)取組み

<取組みの概要、(数値)目標、実績など>

海洋汚染対策の一環として、社内特設販売イベントにおいてプラスチック製レジ袋を提供しない運用の試行実施を開始した。プラスチック製レジ袋は提供せず、やむを得ず持ち帰りの袋を希望される場合は、紙袋(新品ではなくリユース)で提供している。

また、不要な袋・エコバッグを回収し、ビル内でのみ使用できる「シェアリングエコバッグ」の仕組みも開始した。社内特設販売以外でも、売店等に共同利用できるエコバッグを設置し、利用希望者は使用后、次回来店時に返却する仕組み。ISO14001 の仕組みを活用し、買い物の際はマイバッグの持参を推奨し、不要なレジ袋を断るよう社内周知を行っている。

